

教職員向け特別講義に関するアンケート結果

概要

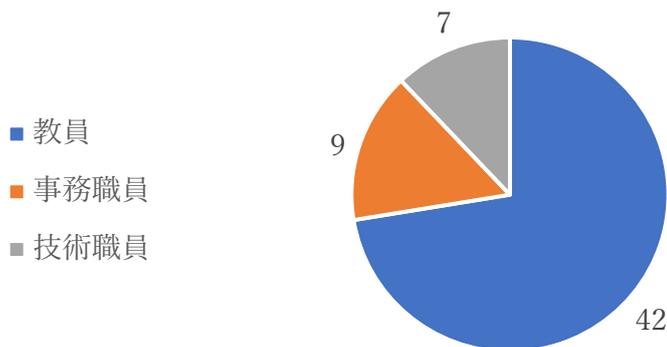
男女共同参画推進室では、男女共同参画を推進するために、労働環境や学習環境の改善者や意識改革などを進めています。昨今、ダイバーシティやインクルージョンが重視されており、これらの知識を深めることが求められています。

そこで、東京 2020 パラリンピック「車いすバスケットボール男子」に日本代表として出場し銀メダルを獲得した、本校客員准教授の藤澤潔先生にご講義していただきました。

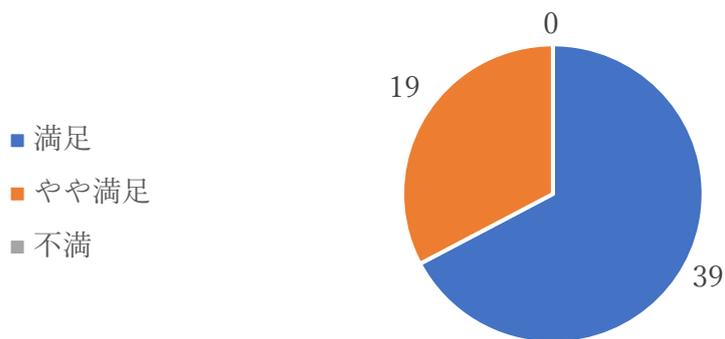
特別講義終了後、受講した教職員にアンケートを実施しましたので、その結果を掲載します。

集計結果（58名回答）

1. 所属を選択して下さい

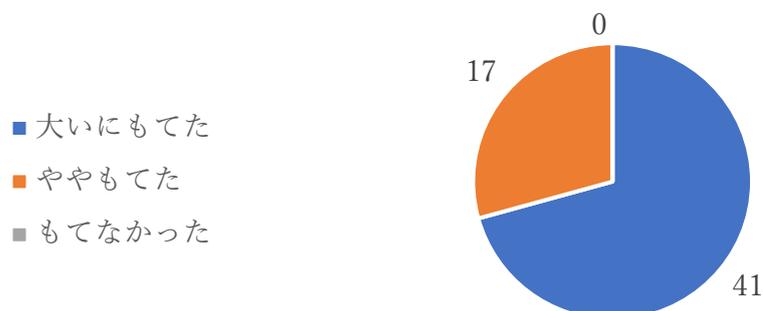


2. あなたの求めるテーマでしたか。



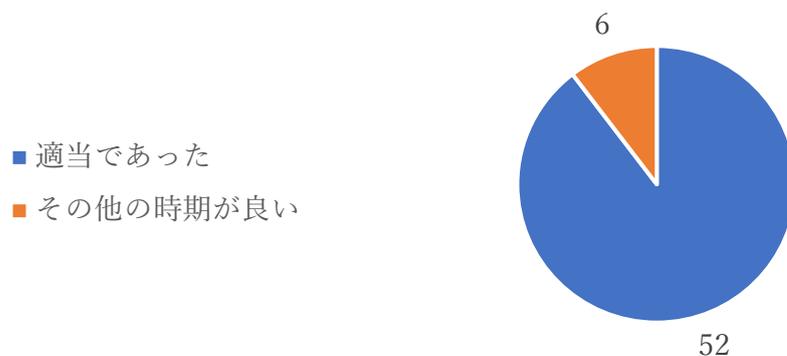
教職員の方々に、満足していただける講義を行うことが出来ました。

3. 今回の内容に興味をもてましたか



教職員の方々に、今回の内容に対し興味を持っていただくことができました。

4. 開催時期は適当でしたか



開催時期については、多くの教職員の方に適当であったようです。

その他の時期に開催してほしいと意見もあり、具体的には「前期期末あたり」などの提案がありました。

5. 本日の講演内容に関して、質問、コメントなどありましたらご記入ください。質問に返答が必要な場合記名もお願いします。

頂いた意見・質問等をまとめました。実際の回答を少し抽象化しているものもあります。

感想

- ・長野高専での DE&I を知る機会となり、また、DE&I という考え方についての理解が深まり、大変勉強になりました。
- ・現在、メンタルの弱い人が増えているため、「厳しさ」の度合いについて適切な対応をすることが非常に難しいと感じます。
- ・学生への講義はぜひ継続していただければと思います。
- ・インクルージョン（配慮・認め合う・尊重し合う・多様性を受け入れる）の考え方は、居心地の良いクラス形成やいじめ対策にもつながると感じました。

- ・本校学生に対して講演を実施した結果のフィードバックがあり、藤澤潔先生の視点からのコメントをいただいたことは、大変参考になりました。
- ・今後どのような活動や展開を進めて行くべきか、「知る」や「気付く」の最初の一步に対して、次の歩みをどうすべきかを考えたいと感じました。
- ・多様性についての理解は、自分自身と向き合い感じたことを考えることが必要であると気が付いた。学生が多様性について学ぶことは、他者理解につながるいい機会であり、障害者の権利主張についても理解が深まると思った。
- ・アメリカの大学留学で感じたことは、個性を否定せず、相手の意見を尊重し、丁寧に議論することが普通だということです。多様性を受け入れるためには、ルールを守り、人との関係を大切にすることが必要です。日本でも、ルールを守りながら、異なる考え方を尊重する環境を作ることが大切だと感じました。
- ・障害の大きさに応じて持ち点制度を設けて、公平性を保つというお話を通して、平等よりも公平であることが重要だと改めて感じました。

質問

- ・個人の考え方を受け入れる環境は大切ですが、理解を確認することが難しく、自分が「分かったつもり」に陥りがちです。そこで、力を発揮するために必要な議論や事例があれば教えていただきたいです。

6. 今後の男女共同参画推進室講演会で取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたらご記入ください。

頂いた内容をまとめました。実際の回答を少し抽象化しているものもあります。

- ・専攻科生にもお話を聞かせていただけるとよいかもしれません。
- ・産休・育児休暇・介護休暇を教員がとることの意識が向上する内容の講演。
- ・名称を「ダイバーシティ推進室」または「男女共同参画・ダイバーシティ推進室」に改めるのも良いと思えます。
- ・ジェンダーとキャリアとの関係、または LGBT について取り上げていただければ嬉しいです。
- ・「多様性」観点で、教職員の個々のライフイベントや病気・怪我などに対し、お互いを支え合う仕組みの検討をしてほしい。車椅子バスケットのポイント制による公平性を参考に、長野高専での現状の問題点を分析し、どのような公平な仕組みを構築できるかを検討し、職場環境を改善する活動をしていただきたい。
- ・共同参画を意識させるようなイベント。例えば教員とその家族も交えた料理会などの色々な年代の人が交流できるようなイベント。
- ・”マジョリティ”の立場からダイバーシティについての講演を希望します。マジョリティ性

を持つ人は、自分の特権（＝努力せずに持つことができる優位性）に気づく機会が少ないため、社会的不平等について理解はしていても、自分には関係ないと考えがちです。マジョリティの人たちにも、ダイバーシティに関心を持ち、自分たちができることを考えることが必要だという話を聞きたいです。